

多言語対応・ICT化推進フォーラム～人と技術で伝える、伝わる～ パネルディスカッション「やさしい日本語の可能性」登壇者紹介

【パネリスト】



佐藤 和之 氏（弘前大学 人文社会科学部 教授）

1995年の阪神・淡路大震災を機として**災害時の外国人への情報提供手段**として「やさしい日本語」を提唱。2000年に「やさしい日本語」研究で消防庁長官賞と村尾学術奨励賞（神戸に貢献のあった研究に与えられる賞）を受賞。

地域社会に迎えたさまざまな国からの住民を情報弱者にしないための**減災のための「やさしい日本語」研究**に取り組み、自治体・学校等への情報提供や被災地支援などの活動を行っている。**自治体や外国人支援団体が生活情報を伝える手段**としても「やさしい日本語」研究に取り組んでいる。



庵 功雄 氏（一橋大学 国際教育センター 教授）

外国人旅行者だけでなく、外国人居住者も増加傾向が続く中、**多文化共生社会の実現に「やさしい日本語」が必要**と提唱。外国人看護師・介護福祉士など、外国人自らの能力を十分に発揮して活躍して貰うためにも情報保障としても日本語のやさしい表現が必要性を説いている。

横浜市の『やさしい日本語』事業に、外部有識者として参画。

著書に、『**やさしい日本語 一多文化共生社会へ**』（岩波書店 平成28年）



関谷 聡 氏（横浜市 国際局 政策総務課 担当課長）

約8万人を超える在住外国人が暮らす横浜市は、「やさしい日本語」を先進的に取り入れ、情報発信に努めている。

平成22年に策定した「**横浜市多言語広報指針**」では、対応言語のひとつとして「やさしい日本語」が定められている。平成25年度から一橋大学の庵教授を代表とするやさしい日本語研究グループの協力を得ながら、庁内検討会を設置しガイドラインを策定。本年6月には『**「やさしい日本語」で伝える 分かりやすく伝わりやすい日本語を目指して 第3版**』を発表。



吉開 章 氏（やさしい日本語ツーリズム研究会 事務局長）

1989年、株式会社電通入社。主にデジタル・グローバル領域に従事。2016年8月に「やさしい日本語ツーリズム研究会」を立ち上げ、事務局長に就任。

上記、佐藤和之教授・庵功雄教授の研究をベースとして、基礎的な日本語を学んできた**外国人旅行者に対して「やさしい日本語」で十分に通用する**ということを提唱。福岡県柳川市の地方創生事業を通して実証している。

【コーディネーター】



西郡 仁朗 氏（首都大学東京 都市教養学部 日本語教育学教室 教授）

日本語の音声や自然な談話データの分析など**外国人にとっての日本語の難しさを研究**。日本語の対面授業だけでなく、遠隔教育やマルチメディアを利用し、高度な技術や技能を海外の優れた人材が、日本語の壁の前に立ち往生することのないように、**日本語教育の質の向上**に取り組む。

日本語教育学会（学会誌編集委員会委員長）、看護と介護の日本語教育研究会（代表幹事）等